

神奈川大学「就活ピアサポーター」

～神大生の 神大生による 神大生のための 就職活動支援～

神奈川大学就職事務部長 大塚 順子

神奈川大学では平成24年度から、4年生の就職内定者が在学生の就職活動を支援する、「神大就活ピアサポーター」を発足させた。実体験で得た、就職活動のポイントやアドバイスなどの生の声を発信し、就職活動に臨む在学生の不安を解消するためのサポートを担う「神大就活ピアサポーター」の活動やねらいについて、神奈川大学の^{大塚順子}就職事務部長にお話を伺った。



ピアサポーターと談笑する大塚部長(左)

敷かれたレールの上でない「就職活動」

最近の学生に見られる傾向として、幼少時から、疑問に思ったことを自ら考え、自らの足で調べるという経験が少ないということがある。自ら動くのではなく、答えやゴールをすぐ求めたがる。障害があっても乗り越えようとせずに避けて通ろうとすることが多いと感じる。

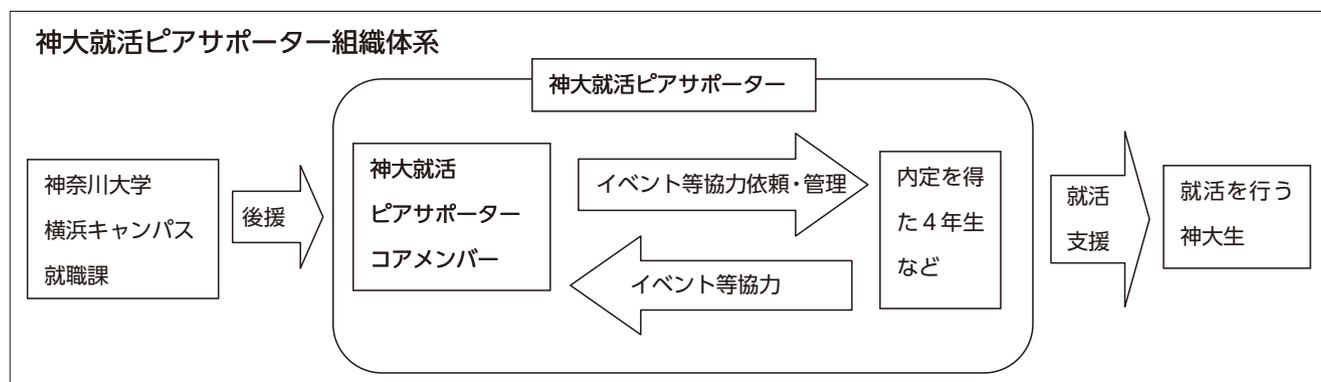
学生の成長過程の中で、高校受験や大学受験などの進路の選択は、自分の偏差値や親の意向などで決めていることが多い。つまり、「進学」を考える段階では、ある程度敷かれたレールに乗って進むことができる。しかし、「就職活動」に関しては、そのようなレールの延長線上にあるものではない。学生が、初めて自らの長所や短所、これまで

の経験を自問して、自分に合う仕事は何か、自分の中で整理をしてアウトプットしていかなければならない。そのうえで、主体的に動いて企業とのマッチングを行わなければならないのである。

就職課の自問

かつての就職活動は、「自分で」やるものであった。大学の就職課やキャリアセンターを活用するのは、内定辞退の方法を聞くなど限定的利用が中心だったと思われる。しかし、近年は、就職課にキャリアカウンセラーを配置するなど、受験生に対し「面倒見のいい大学」を訴えないと学生が集まらない時代になった。

そうした支援を行う中で、「就職活動」は、これ



までは学生から学生へ伝えるのが普通だったのではないかと。就職課などに頼らなかったということは、ゼミ、研究室、サークルを通じて就職活動に対する情報や心構えなどが先輩から後輩へつながっていたのではないかと。現在はあまり機能しなくなった「つながり」を、復活させることができるか。そのことが、ピアサポーターをはじめようと思った理由の一つである。

さらに、就職課の就職支援は本当に役立っているか知りたかったことも、ピアサポーターをはじめた理由の一つである。現在就職課の行っている就職支援は学生にとって意味があったのか、これをアンケートで聞いても学生の本音がなかなかでてこない。

そのようなことを考えていたときに、実施を後押ししたのは、「学生生活実態調査」の結果だった。「学生が学生に」どんな支援を望むのかを問うたところ、履修相談などを抑えて、就職活動への支援が圧倒的にトップだったのである。

■ピアサポーターの募集・活動へ

夏休み前に、横浜キャンパスの就職課で、就職の内定を得た4年生に、後輩の就職支援をやりませんかと呼びかけた。コアになるメンバーは8名くらいが適切であると考え、8名が決まった時点で募集を打ち切った。

就職活動を行う学生のうち、就職課に来ない学生は約3割である。(そのうち約4割は内定を自らの力で得てくる。)残りの7割は就職課と何らかの接点をもつのだが、結果的には就職課への相談回数が多い学生ほど内定を取れている状況にある。ピアサポーターに応募してきた学生は、基本的に就職活動に対するモチベーションが高く、何らかのかたちで就職課に相談をしていた学生が多い。就職課への相談が転機になった学生や、就職課をうまく活用して内定を得た学生もいた。「就職課に恩返しをしたい」、「後輩に経験を伝えたい」

と純粹に思ってくれたようだ。後輩たちの力を伸ばすことを目的に集まってくれた。

私たちはもう一つの目的を意識していた。それは、メンバーである4年生が社会人へ向けて学生生活の最後に主体性を伸ばす機会をもたせることである。つまり、就活ピアサポーターは、後輩たちを伸ばすことと、自分たちを伸ばすことの二つの目的をもってスタートした。



ピアサポーターの第1期生のみなさん

■想像を超える成果

平成24年度は、活動の総括も含めて10回ほどミーティングを行い、自ら活動内容を決めながら進めていった。また、ガイダンスやパネルディスカッションなどのイベントを、10月から1月まで毎月開催した。その中には、「1・2年生のための就活ガイダンス」、「就活経験談・失敗談パネルディスカッション」といったものもある。毎月100人程度、多いときには200人近い参加者だった。

また、10月から横浜キャンパスの就職資料室の中に、相談ブースを設けた。週3日、昼休みや5限目に開催した。12月から1月は協力者に加わってもらい、週5日の開催になった。その後も規模を縮小して3月まで続けた。相談ブースの利用者は合計で205人、全学部に及んでいる。

■「自主的」「無給」

ピアサポーターは、「自主的」、「無給」であるこ

とにこだわらなかつた。就職課で何をやるかを決めてしまうとアルバイト感覚となり、自主性がなくなってしまう。平成24年度のピアサポーターの活動が想像を超えて成果をあげたのは、自主性を尊重したことが大きな要因であろう。自分たちがやりたいことを、大学と連携することで成し遂げることができたという達成感は、ピアサポーターの学生自らの成長につながった。また、ピアサポーター同士のネットワークも代えがたい成果になったと思う。

実は、学生の活動の対価は「無給」という原則があったが、学生たちの頑張りに応えようと、交通費程度の負担などを申し出たところ、ピアサポーターの学生自身が断った。アルバイトでお金を稼ぐことと自分のやりたいことの切り分けがしっか

りできていた。

学内において、ピアサポーターの活動の対価として文部科学省の補助金¹を活用してはどうかという意見があったが、平成24年度の取り組みが成功したのは、学生の自主性を尊重したからということ 강조했다。

【OB・OGを巻き込んだサイクルを】

ピアサポーターの4年生が最後に良い経験をし、さらに成長して卒業することで、内定先の企業に「神奈川大学はいい学生がいるから、次も求人を出そう」と思わせたい。また、ピアサポーターがOB、OGとなり、神奈川大学に貢献したいと考えたときに、その気持ちに応えることができる体制づくりをすることも、将来的な目標となる。

現在構想していることであるが、ピアサポーターと並行して、1～3年生のグループを立ち上げようと考えている。モチベーションの高い学生がいれば機能すると思う。そのようなグループが、例えば、大手企業の人事担当者や中小企業の経営者などの話を聞く機会を持つといった、自らがキャリアを考えるうえで必要な企画をした際に、講演料が必要な場合は就職課が後方支援をするなど、活動の活性化を図っていきたい。そのような1～3年生のグループが、ピアサポーターの活動と連携する

【平成24年度ピアサポーターの活動】

- 8月10日…メンバー顔合わせ(第1回ミーティング)
- 8月21日…第2回ミーティング
- 9月27日…第3回ミーティング
- 10月1日～5日…学部別オリエンテーションでの告知活動・アンケート実施
- 10月8日…第4回ミーティング
- 10月8日、10日…「ピアサポーターによる就活ガイダンス」(10月イベント)
- 10月24日…第5回ミーティング
- 11月6日、7日…「4年生内定者による就活相談会」(11月イベント)
- 11月16日…第6回ミーティング
- 12月6日…第7回ミーティング
- 12月6日、8日…「1・2年生のための就活ガイダンス」(12月イベント)
- 12月17日…第8回ミーティング
- 1月11日…「就活経験談・失敗談パネルディスカッション」(1月イベント)
- 2月22日…活動総括第1回
- 3月6日…活動総括第2回
- ※ 10月より就職活動相談ブースでの就活相談や履歴書・エントリーシートの公開も継続して実施

【ピアサポーターの情報発信】

学内掲示板やKUキャリアナビ※などによる情報発信、SNSを活用し、学内就活動セミナーの紹介やメンバーによる体験談・アドバイスなどを発信

※KUキャリアナビ…神大生を採用したい企業の求人情報や就職課が所有する企業データ等の情報が掲載されている神大オリジナルの就職支援Webサイト

¹ 平成25年度に文部科学省が「私立大学等の経常費に対する補助」の中で、「学内ケーススタディ」等への支援の強化として設定した。就職支援センターでの業務や下級生に対するゼミや論文指導などを想定しており、予算総額は5億円、約5000人当たり1人分10万円の補助を予定している。

ことで、学生の活動がさらに活発になるだろう。

さらに、そのような活動をした学生がOB、OGになっても、大学に戻ってきて就職活動を行う学生の面接指導にあたるなど、大学と接点を持つような機会をつくりたい。つまり、神奈川大学としては、4年生のピアサポーターや1～3年生グループの活動が活性化し、さらにOB・OGが在

学生の就職活動を支援し、さらには連携するような大きなサイクルを機能させていきたいと考えている。そのようなサイクルが機能するならば、就職支援を行う就職課の仕事のあり方、ひいてはその存在自体も大きく変わってくるのだろうと感じるのである。

interview

神大ピアサポーター1期生インタビュー

ここでは、「神大ピアサポーター」第1期生の皆さんへのインタビューを紹介します。大学の期待と、ピアサポーター第1期生の思いが同じ方向を向いたことで、この取り組みは大きな成果をあげることができました。現在、第1期生の皆さんは卒業し、新入社員として働いています。新社会人としての生活は、悩みや葛藤もあるということでしたが、仕事に対する前向きな姿勢が印象的でした。

○ピアサポーターに手をあげた理由は？

- ・大学ではキャリア教育の授業などもあるが、現実感のある問題として捉えられない学生が多いと思ったので、就職活動を経験した学生がサポートすることが有効だと思った。
- ・ゼミやサークルなどでは、先輩から就職活動について詳しく話を聞く機会はほとんどなかった。
- ・就職課で話を聞くよりも先輩の方が話しやすいし、リアリティがある話が聞けると思い、そういう環境を後輩につくりたかった。
- ・「つらい場面もあるが、就活は実は楽しいもの」、「就職活動を開始する前から大学名で気後れを感じる必要はないこと」など就活を通じてわかったこと、感じたことを後輩に伝えたかった。
- ・就職活動は実は振り返る機会がない。3年生に話すことで自分がどういう気持ちで社会人になるのか振り返ることができると思った。

○活動の感想・工夫は？

- ・結構行き当たりばったりの活動ではあったが、楽しくやるということが大切だとわかった。
- ・資料を取りにきただけの後輩に、声をかけて相談ブースに呼び込み話を聞いた。

○得られたものは？

- ・アルバイトでは得られない体験であった。
- ・大学の就職課と協働して新たなものを作り上げるという得がたい体験だった。
- ・ピアサポーター同士の絆ができた。大学生活の最後に自分が成長している実感が持てた。

○2代目への期待は？

- ・我々がやったことをベースにするのも、まったく新しいものにするのも自由だと思う。
- ・とにかく楽しんでほしい。
- ・OB・OGとなったが呼ばれば、できるだけ協力をしたい。